

V “地域における連携力育成事業

日本工業大学と宮代町との連携“認知症まちづくり”活動

日本工業大学が所在する宮代町を舞台として、専門職のみならず、行政、民間企業、地域住民も対象とした地域における連携力育成に向けた取り組みを、主に日工大のsaipeメンバーが担当して進めてきました。

2017年に取り組みを始めとして、2021年からは定常的な活動として、**認知症の方とご家族が安心して暮らせる地域づくり**（認知症まちづくり）に関する取り組みを行っています。職種や立場を超えて多くの人々が当事者意識を持ち、目的を共有しやすいことを旨としてテーマ設定をします。2040年までに認知症の方の割合が高くなることを見込まれており、**買い物や、交通機関の利用など日々の営みを認知症のある方がスムーズに行える物理的・社会的環境整備**は、サービスの提供者、他のサービス利用者にとっても重要なことである。**その環境整備を行政、民間、NPO団体、町内で暮らす人の協働で行い、その過程での「連携力」の醸成**を目指しています。その「連携力」は、地域で暮らす全ての人々が享受し得るものと考えています。

具体的には、宮代町役場、宮代町社会福祉協議会、宮代町立図書館、日工大saipeメンバーが月1回を基本として定例ミーティングを行いながら、「**認知症まちづくり**」に関する取り組みを企画・実施しています。

1. 2025年度 日工大と宮代町との連携“認知症まちづくり”活動報告

●定例ミーティング

前半の第1～7回（4月～10月）は2つの「認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展」の企画検討と振り返りを行い、後半の第8～10回（11月～3月）は、今年度の事業から発展する来年度計画について検討を行った。後半は特に、合同展vol.8（紺野氏の講演会と展示会）を受けて、宮代版スローショッピングの実現に向けた活動や、認知症の方の社会参加に取り組む企業等の交流会の実施に向けてミーティングを行った。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.7

9月12日（金）～10月13日（月） 会場：宮代町立図書館

2022年度から開催している、**宮代町立図書館**を会場とした、パネル展示、講演会、映画上映会等を行う行事である。認知症と「**認知症まちづくり**」に関する理解を深め、**広める**ことを目的としている。展示は認知症・認知症予防・認知症の方の暮らしの支援などに関するもののほか、認知症の方の社会参加支援を行っている団体や企業の取り組みに関するものを中心とし、身近な高齢者との思い出を描いた宮代の小学生による絵手紙コーナーもあり、多世代の多くの来訪者があった。さらに、9月23日（火）には特別映画会「ピア～まちをつなぐもの～」の上映、9月28日（日）には「回想サロンin図書館」、10月13日（月）には、日工大の勝木祐仁先生を講師とした講演会「暮らしの記憶を紡ぎ合う～宮代発「まちをアルバムにする」とそこから生まれた取り組みの紹介～」を開催した。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.8「宮代で共に暮らす展示会・講演会」

9月21日（日） 会場：コミュニティセンター進修館 大ホール

宮代町で認知症の人の社会参加を支援している企業のパネル展示を行うとともに、岩手県滝沢市で「認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト」として、スーパーマーケットで**スローショッピングを提案した紺野敏昭氏（医師）**を講師として迎え、買物支援など、誰もが安心して地域で暮らせるヒントについて講演会を行った。その後、「おしゃべり会」として、**日工大の学生がファシリテーター**となってチームに別れ、講演会で学んだことを振り返った。オレンジカフェとして会場を提供しているタリーズコーヒー（東武動物公園駅）によるコーヒータイムや認知症の人が困っているときに対応する「見守り協力店」で扱う商品の福引などお楽しみ会もあり、会場は大変盛り上がった。

《今後の取り組み》今年度は、「認知症まちづくり」への理解の普及から一歩進め、まずは「買物」という場面で、地域でどんな取組みが可能かをみんなで考え、実際に実現するための方策を検討することが出来た。**今後は、当事者、家族、民間事業者、地域住民などとの連携を深め、より一層「認知症まちづくり」の取り組みを展開していきたい。**

